

今年も収穫感謝・謝恩日礼拝を迎えました。少し早いですが、1年を振り返り、主に感謝を捧げましょう。「充滿」を感じる1年だったのでしょうか。そして、新しい年を迎えるにあたり、「献身」の思いは確かめられるのでしょうか。

### 兄弟が共に座っている

教会暦では、今朝の礼拝が今年最後の礼拝です。1年を振り返るにふさわしい時です。あなたにとって、どんな1年でしたか。「一年の計は元旦にあり」と言いますがなかなか急に言われても、良いアイデアが浮かばないものです。それは「振り返り」が必要です。今年の歩みに、新しい年の道も、自ずと示されます。振り返って、感謝と内省をすることは、新しい年をより豊かな1年とする、助けになることでしょう。

教会は、アシュラムの五大原則に着想を得て、今年は三年目でした。それは「充滿」です。心に満たされる、恵みと感謝、あなたにとって、それは何だったのでしょうか。4年ぶりの近畿夏期聖会、夏期学校にバイブルキャンプ、そして先週のハートフル・コンサート。教会にとって、それは紛れもない、恵みと感謝が溢れる時でした。「兄弟姉妹が、共に座っている、そのことだけでなんという恵みか、なんという喜びか」と実体験しました。フィリピ2章13節の口語訳を思い出します。

あふれる恵みと感謝を体験しても、私たちの心はすぐに目の前の出来事に移って行ってしまいます。その喜びを忘れてしまうのです。しかし、その祝福を、思い起こすことはできます。「やっぱり大きな祝福だった」と再確認することもできます。それは、反省と共に、私たちにとって必ず必要な、明日を開くいのちの糧です。

### 献身の思いへ

これも少し早いですが、新しい年は、アシュラムの四番目「神の国の体験と献身」の年を迎えます。新しい伝道師を迎える計画が進められていますから、献身者を育てるという使命を教会が担う年に、ふさわしい目標だと言えるでしょう。しかし、それだけでなく、私たちひとりひとりが、神の国を実現させる「献身者」となることが、最も大切なテーマなのです。

この年に、久しぶりの再会を果たし、喜びや感動を味わった方も多いことでしょう。その心熱くされた思いを、どのように生かすことができるでしょうか。隣人を愛することを示される人もいるでしょうし、疎遠になった友人を心にかけることを示された人もいるでしょう。あるいは、数年ぶりの対面に、今まで頼りにしてきた人を、逆に支えなければならぬと、示された人もいるでしょう。そのチャレンジは、まさしく新しい年の「献身」への招きだと言えるでしょう。この恵みを「ああ良かった」と忘れてはいけません。イスラエルの民が、詩編133編を賛美して、約束の実現を祈り続けたように、私たちも主の希望に生きる民として、歩み出しましょう。